

資生堂、CDP より最高評価の「A リスト企業」に初のダブル選定

～「気候変動」分野は 2 年連続、「フォレスト」分野は初の選定～



CLIMATE FORESTS

資生堂は、国際的な非営利団体である CDP より、「気候変動」および「フォレスト」分野の透明性とパフォーマンスにおけるリーダーシップが認められ、2023 年度の A リスト企業に選定されました。「気候変動」分野では 2 年連続、「フォレスト」分野では初の選定となり、当社として初のダブル A 企業選定となりました。

当社は、気候変動の緩和のための取り組みとして、2030 年に向けて全バリューチェーンを通じた CO₂排出削減目標 (Science Based Targets) を設定^{※1}、2050 年までにはネットゼロを目指しています。また、事業における電力の再生可能エネルギー100%切替えを目指す RE100^{※2} に加盟し、国内外自社サイトにおける再生可能エネルギーへの切替えを加速させています。その他、サステナブルな原材料の調達など、バリューチェーン全体を通じた環境負荷軽減に全社で積極的に取り組んでいます。さらに、事業と気候変動や自然・生物多様性との関係性をリスクと機会の視点から分析した TCFD/TNFD レポート^{※3} も開示しています。

今後も企業使命である「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD (美の力でよりよい世界を)」のもと、2030 年に向けて「美の力を通じて“人々が幸福を実感できる”サステナブルな社会の実現」を目指していきます。

CDP は、企業や自治体の環境情報開示のための世界的なシステムを有する国際的な非営利団体で、2000 年の設立以来、資本市場と企業の購買力を活用することで、企業が環境影響を開示し、温室効果ガスを削減し、水資源や森林を保護することを促進する取り組みを先導してきました。現在では 136 兆米ドル以上の資産を保有する 740 を超える署名金融機関と協働しています。2023 年には、世界の時価総額の 3 分の 2 に相当する 23,000 社以上、1,100 以上の自治体を含む、世界中の 24,000 を超える組織が、CDP の質問書を通じて環境情報を開示しました。また、CDP は TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) に準拠した質問書に基づく世界最大の環境データベースを有し、CDP スコアはネットゼロ、持続可能でレジリエントな経済を構築するために投資や調達の意思決定に広く活用されています。

資生堂のサステナビリティ: <https://corp.shiseido.com/jp/sustainability/>

資生堂サステナビリティレポート 2022: <https://corp.shiseido.com/sustainabilityreport/jp/2022/>

※1 2030 年までに Scope1+2 (GHG 排出量を資生堂全事業所) で 46.2%削減、Scope3 (資生堂全事業所を除くバリューチェーン全体) で 55%削減 (いずれも 2019 年対比)

※2 「100% Renewable Electricity」。事業で使用する電力の再生可能エネルギー100%化を目指す企業で構成される国際的なイニシアティブ。The Climate Group (温室効果ガス排出量削減に取り組む国際 NPO) が、CDP とのパートナーシップのもとで運営。

※3 気候関連財務情報開示レポート: https://corp.shiseido.com/jp/sustainability/env/pdf/risks_report.pdf